



## 地下水のはたらきについて教えて

### 雨水の一部が地下水になる

地上に雨が降ると、降った雨水の一部は蒸発し、一部は地下にしみこみ、残りは地面を流れて川になったり、川の水に流れこんだりします。地下には、つぶのあらさや成分のちがう、土砂の層が重なっています。このような層の重なりを地層といいます。

地層には、水をよく通すことのできる、砂や小石でできている層と、細かいつぶの土やねん土などでできていて、水を通しにくい層とがあります。

地上に降った雨水の一部は、地下にしみこみ、水を通しにくい層の上にたまります。このようにしてたまった水を、地下水といいます。

### 湖や滝、しょう乳洞などをつくる

地下水が地層の割れ目などから、ふきだしている所があります。これを泉または、わき水といいます。この泉から滝ができたり、湖ができてたりします。

富士山の地下の、水を通しにくい地層の上を地下水が流れています。富士山のまわりにある富士五湖、忍野八海などの池、白糸の滝は、地下水によってできたものです。

また、地下水のはたらきで、いろいろ変わった地形ができます。おもに、石灰岩でできている地域では、地下水が石灰岩をけずったり、とかしたりするはたらきで、しょう乳洞という大きなほら穴が、できることがあります。

### 飲料水や工業用水にする

地下水は、川の水に比べてきれいなので、井戸をほって、飲料水や工業用水として使われています。しかし、大量に地下水をくみ上げると、地ばんが下がってしまうことがあります。したがって、地下水は、地ばんを保つはたらきもしています。（監修・国司 真）

